

愛知県感染症情報

Infectious Diseases Weekly Report

平成 18 年 30 週(7 月 4 週 7/24 ~ 7/30)

(作成) 愛知県感染症情報センター

連絡先: 052-910-5619 E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

今週の内容

- ・ 注意する感染症
- ・ 病原体検出情報
- ・ 定点医療機関コメント
- ・ 全数把握感染症発生状況
- ・ 感染症だより (7 月前半 / 後半)
- ・ WHO 疫学週報抄訳
2006 年 7 月 21 日 (81 巻 29 号)
2006 年 7 月 28 日 (81 巻 30 号)
- ・ 五類定点把握感染症報告数
(保健所別、年齢別)

注意する感染症

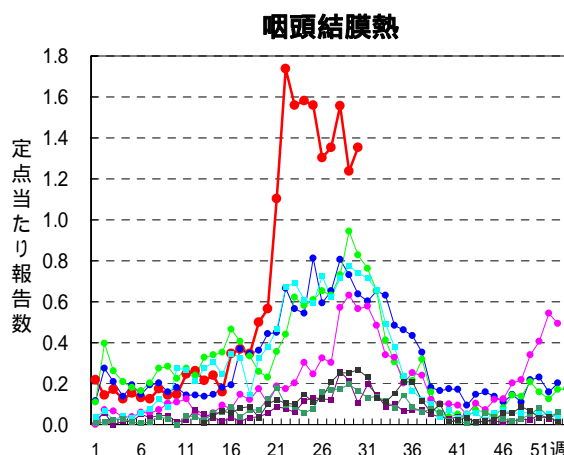
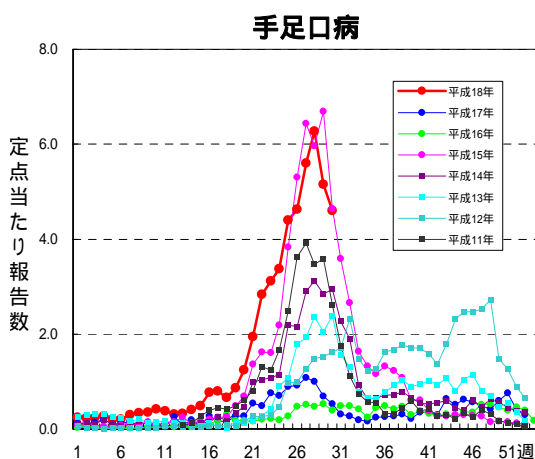
1) 手足口病 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/natsu.html>)

第 30 週の定点あたり患者報告数は 4.60 人、前週比 0.9 倍 (938 人 837 人) と、ピークを過ぎましたが、依然として流行が続いています。本年 4 月以降、当所に搬入された手足口病患者の検体 95 件のうち 44 件からウイルスが分離され、うち 41 件 (93%) はエンテロウイルス 71 型でした。このウイルスは、特に中枢神経合併症に注意する必要があります。

衛生研究所技術情報抜粋 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/Vol.26-2.pdf>

2) 咽頭結膜熱 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/intou.html>)

第 30 週の定点あたり患者報告数は 1.35 人、前週比 1.1 倍 (225 人 246 人) と、依然としてここ数年間で最も高い状態が続いています。



3) 伝染性紅斑 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/ringo.html>)

第 30 週の定点あたり患者報告数は 0.91 人、前週比 1.3 倍 (121 人 165 人) と先週より増加し、依然として流行が続いています。

4) ヘルパンギーナ (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/herpangina.html>)

第 30 週の定点あたり患者報告数は 2.50 人、前週比 0.8 倍 (543 人 455 人) とピークを過ぎましたが、定点医療機関から流行中とのコメントが多く寄せられています。

愛知県感染症情報センター (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>)

その他の疾病のグラフについては「グラフ総覧」

(<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>) をご覧下さい。

平成 18 年度疾患別ウイルス検出情報

	感染性胃腸炎	手足口病	ヘルパンギーナ	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	急性脳炎	インフルエンザ
患者数	83	95	70	19	33	26	1	9
PV-1	2	-	-	-	-	-	-	-
PV-2	2	-	-	-	-	-	-	-
PV-3	1	-	-	-	-	-	-	-
CV-A2	-	-	1	-	-	-	-	-
CV-A4	-	-	21	-	-	-	-	-
CV-A5	-	-	6	-	-	-	-	-
CV-A16	-	-	1	-	-	-	-	-
EV-71	-	41	-	-	-	-	-	-
CV-A9	1	1	-	-	-	-	-	-
CV-B3	-	1	-	-	-	-	-	-
CV-B4	-	-	2	-	-	-	-	-
Flu.B	-	-	-	-	-	-	-	4
HMPV	-	-	-	-	-	1	-	-
Rota A-G1	6	-	-	-	-	-	-	-
Rota A-G3	8	-	-	-	-	-	-	-
NV-G1	1	-	-	-	-	-	-	-
NV-G2	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-1	4	-	-	-	-	-	-	-
Ad-3	-	1	-	5	11	-	-	-
Ad-5	2	-	-	-	-	-	-	-
Ad-6	1	-	-	-	-	-	-	-
Ad-37	-	-	-	-	3	-	-	-
Ad-41	1	-	-	-	-	-	-	-
検査中	32	43	37	11	9	19	-	4
陰性	27	9	2	3	10	6	1	1

PV: ポリオウイルス
 CV-A: コクサッキーウイルス A 型
 CV-B: コクサッキーウイルス B 型
 EV-71: エンテロウイルス 71 型
 Flu.B : B 型インフルエンザウイルス
 HMPV: ヒトメタニューモウイルス
 Rota A-G1: A 群ロタウイルス 1 型
 Rota A-G3: A 群ロタウイルス 3 型
 NV-G1: ノロウイルス 1 型
 NV-G2: ノロウイルス 2 型
 Ad: アデノウイルス

【参考】愛知県衛生研究所「病原体検出情報」

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/67f/microbiol5.html>

各疾患別のウイルス検出状況コメントをご覧になれます。

定点医療機関コメント（名古屋市除く）

尾張西部地区

手足口病まだ多いです。
アデノチェック陽性 高熱児 6 名（球結膜充血はほとんどなし。）
9 歳女 カンピロバクター coli
【一宮市 あさのこどもクリニック】
手足口病が保育園で流行中
【一宮市 後藤小児科医院】
病原性大腸菌 O18 3 歳男
病原性大腸菌 O74 5 歳男
マイコプラズマ感染症 7 名
【一宮市 城後小児科】

咽頭結膜熱多し。
手足口病多発しています。
【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】
ヘルパンギーナ、手足口病、溶連菌感染症、多くみられています。
アデノウイルス感染症 4 名ありました。
【江南市 みやぐちこどもクリニック】
手足口病、伝染性紅斑、アデノウイルス感染症が、いまだ続いて居ります。
【春日町 丹羽医院】

尾張東部地区

病原大腸菌（O55）6 歳男
手足口病、ヘルパンギーナ多く、伝染性紅斑もみられます。
【瀬戸市 津田こどもクリニック】
今週も溶連菌感染症、手足口病、ヘルパンギーナみられますが、夏休みに入って減少してきました。
その他、伝染性紅斑、水痘、マイコプラズマ感染症等。
【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
職場でビールス下痢症が流行しているようです。
【東郷町 ホリバ医院】
手足口病が続いています。
【春日井市 春日井市民病院】

水痘、アデノ感染症、手足口病、リンゴ病、ムンプス続発中。
【春日井市 朝宮こどもクリニック】
ヘルパンギーナ、手足口病流行中。
【小牧市 小牧市民病院】
夏かぜと相変わらず伝染性紅斑が多いです。
【小牧市 志水こどもクリニック】
手足口病が多いです。
【小牧市 医療法人心正会鈴木小児科】
2 歳男 サルモネラ腸炎 2 名
【半田市 医療法人おっかわこどもクリニック】
7 歳女 サルモネラ O4（+）
3 歳男 サルモネラ O8（+）
6 歳男 カンピロバクター（+）
【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

2歳男、3歳男 キャピリアアデノ(+)
0歳男 E.coli(O1)
7歳男 StrepA
【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
病原大腸菌混合O1(+)
1歳女
【岡崎市 花田こどもクリニック】
4歳女 病原性大腸菌O25 VT(-)
アデノウイルス感染症、溶連菌感染症、
散見される程度です。
手足口病、伝染性紅斑、ヘルパンギーナ、
目立ちます。
【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】
アデノ(+)
5歳男
3歳男 病原性大腸菌O6(+)
VT(-)
7歳女 病原性大腸菌O1(+)
VT(-)、
カンピロバクター
5歳女 カンピロバクター、病原性大腸
菌O18(+)
VT(-)
13歳男 病原性大腸菌O26(+)
VT(-)
【岡崎市 にいのみ小児科】
マイコプラズマ肺炎 4歳男、9歳男
【岡崎市 医療法人川島小児科水野医院】

手足口病 続いています
【碧南市 永井小児クリニック】
病原性大腸菌O1 1名
【刈谷市 田和小児科医院】
咽頭結膜熱 アデノ check 陽性 12名
マイコプラズマ肺炎 2名
【知立市 宮谷クリニック】
マイコプラズマ肺炎 5歳男
伝染性紅斑 3名は一家族です。
手足口病が減ってきました。
【三好町 三好町民病院】
手足口病が流行
【西尾市 やすい小児科】
4歳男 サルモネラ+ 病原大腸菌(O-18
VT-)
4歳男 サルモネラO-8
アデノウイルス感染症 11ヶ月男、3歳男
【幸田町 とみた小児科】

東三河地区

手足口病増加している。
ムンプス髄膜炎が2名入院しています。
【豊川市 豊川市民病院】

細菌性腸炎多い。
MRSAによる伝染性膿痂疹も多い。
病原大腸菌(O-1) 1歳男
病原大腸菌(O-44) 0歳女
カンピロバクター 7歳男
【豊川市 ささき小児科】

一 ～ 三類感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

<関連リンク> 届出基準 (<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedekijun060612.pdf>)

細菌性赤痢

(二類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	衣浦東部	35	女	- / -	7 / 22	7 / 24	感染地域：中国 <29週報掲載分・再掲>
2	知 多	24	女	7 / 27	7 / 28	7 / 31	推定感染地域； カンボジア <31週報告分>

腸管出血性大腸菌感染症

(三類感染症)

番号	報告 保健所	年齢	性別	発病 月日	初診 月日	診定 月日	備 考
1	瀬 戸	31	男	7 / 15	7 / 22	7 / 25	O157、VT2(+) <29週報掲載分・再掲>
2	瀬 戸	32	女	7 / 3	7 / 22	7 / 25	O157、VT2(+) <29週報掲載分・再掲>
3	春日井	1	男	7 / 17	7 / 19	7 / 23	O157、VT2(+) <29週報掲載分・再掲>
4	瀬 戸	30	女	7 / 22	7 / 22	7 / 25	O157、VT1・VT2(+) <29週報掲載分・再掲>
5	豊田市	1	女	- / -	7 / 27	7 / 27	O111、VT1・VT2(+) <無症状病原体保有者>
6	豊田市	3	女	- / -	7 / 27	7 / 27	O111、VT1・VT2(+) <無症状病原体保有者>
7	豊田市	0	男	- / -	7 / 27	7 / 27	O111、VT1・VT2(+) <無症状病原体保有者>
8	豊田市	28	女	- / -	7 / 27	7 / 27	O111、VT1・VT2(+) <無症状病原体保有者>
9	西 尾	19	男	7 / 18	7 / 22	7 / 26	O121、VT2(+)
10	瀬 戸	6	男	7 / 23	7 / 24	7 / 28	O165、VT2(+)
11	瀬 戸	42	女	7 / 25	7 / 27	8 / 1	O165、VT2(+) <31週報告分>
12	春日井	6	女	7 / 26	7 / 28	7 / 31	O157、VT型不明 <31週報告分>

四類・五類(全数把握)感染症の発生状況

- 愛知県(名古屋市を除く。) -

後天性免疫不全症候群 1例(無症候期、推定感染地域：国内、推定感染経路：性的接触)
<29週報掲載分・再掲>

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

8月に入ってやっと夏らしい日が訪れて来ました。待ってたような蝉の大合唱が賑やかですが、蝉取りの子供達を以前ほど見かけません。よく「取ってあげるから網を貸して」と言って自分が楽しんでものですが、最近の子供は用心深いし外に出ないから公園で会うことも減りました。さて、いつも貴重な情報をありがとうございます。7月前半／後半のまとめをお送りします。

- 1) 名古屋市内：名鉄病院福田先生からは手足口病とヘルパンギーナが急増、咽頭結膜熱も多く、共に重症例の入院が目立ち、感染性胃腸炎（要入院例が増加傾向）はウイルス性と細菌性共に増加傾向で細菌性ではサルモネラとカンピロバクターがほぼ同数、マイコプラズマ肺炎は一定数入院、城北病院渡辺先生からはアデノ陰性の高熱患者散見、ヘルパンギーナ、アデノがちらほら、手足口病が増加傾向にあり髄膜炎合併例もあり、ムンプスが小流行、高熱者の中に川崎病も少しあり、アデノ様で眼球結膜充血、CRP高値で症状だけでは川崎病の初期とまぎらわしい例もあり、第二日赤岩佐先生からは手足口病が散見、髄膜炎の入院も散見、三菱病院入山先生からはA群溶連菌咽頭炎7名とやや減少したが目立ち、うち4名入院（2名は手足口病の合併した兄弟例）、手足口病3名、感染性胃腸炎1名（病原性大腸菌O1）、手足口病の口内炎による摂食困難、脱水で入院1名、急性気管支炎の入院7~8名とのお手紙でした。
- 2) 尾張地区：犬山市武内先生からはA群溶連菌咽頭炎、感染性胃腸炎（カンピロバクター腸炎を含む）がそれぞれ散発中で手足口病が多発中、常滑市民病院高橋先生からは溶連菌感染症、アデノ、水痘、ヘルパンギーナと発熱初日に頭痛、嘔吐2-3回の軽症例が目立ったとのお手紙でした。
- 3) 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは手足口病、アデノウイルス感染症がちらほら、アデノウイルス感染症、胃腸炎、肺炎の入院あり、刈谷市田和先生からは手足口病が多発していたが月末には減少、ムンプス、感染性胃腸炎が時々あり、岡崎市民病院後藤先生からはヘルパンギーナ／手足口病患者が多く水痘も散在、インフルエンザA型（6歳男児、ウイルス性髄膜炎の疑いで入院、髄液正常、インフルキットA陽性）で入院1例、マイコプラズマ肺炎、アデノウイルス感染症による入院が目立つ、碧南市永井先生からは手足口病、水痘、アデノウイルス感染症あり、豊橋市長屋先生からは伝染性紅斑と手足口病が目立つとのお手紙でした。有難うございました。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

2006 年 7 月 21 日（81 巻 29 号）<http://www.who.int/wer/2006/wer8129/en/index.html>

ポリオ野生株。ナイジェリアからシンガポールに輸入。06 年 5 月 19 日シンガポール国立ポリオ検査室発表。2 歳と 5 歳の姉妹。急性弛緩性麻痺(Acute Flaccid Paralysis, AFP)の治療のためナイジェリア（世界最多の野生株ポリオ発生国）からシンガポールに渡航。この姉妹は北部ナイジェリア居住、AFP 発病 4 月 21 日（注：シンガポール入国・検査実施の具体的な日付の記載なし。いずれにせよ発病早期に現地からシンガポールに渡航したと思われる）。流行国からの AFP 入国に対する国内二次発生阻止のためのシンガポール政府の対応は的確で、既存のサーベイランス網（以下サ網）の報告で二次発生はないこと、ポリオ定期接種率は 95% と非常に高く、今回の事例のために臨時ポリオワクチン接種の必要は考慮しなくてもよいこと、から今後神経内科専門医を含む専門チームが WHO の支援の下にサ網を強化することとした。旅行中患者と直接接後旅行した 3 名（2 名インドネシア、1 名ロシア）はそれぞれの国でポリオウイルス検査陰性、発病もなく、検査について国際協力も良好であった。結論：ポリオの流行国からの輸入リスクがある限り、非流行国でもサーベイランス強化とワクチン定期接種継続が重要である。

ポリオ。インドにおける根絶作戦進捗状況。05 年 1 月 - 06 年 6 月：世界でポリオ野生株が土着している 4 ヶ国（ナイジェリア、インド、パキスタン、アフガニスタン）のうちインドにおける野生株ポリオは ワクチン接種普及の強化、サ網強化、単価生ワクチン（1、3 型）の導入、により確実に減少し 04 年の 134 例の届出が 05 年には 66 例、06 年前半で 60 例、流行地はウタルプラデシュ（UP）とビハール両州に限局、高密度の定期外ワクチン補充接種活動（Supplementary Immunization Activities, SIAs）の実行によりインドにおける野生株伝播断絶の可能性が見えてきた。本報は 05 年 1 月 - 06 年 6 月の状況の概略である。ワクチン接種：04 年のポリオ土着 2 州のポリオワクチン定期接種率（乳児期に生ワク 3 回）はビハール 27%、西部 UP 56%、東部 UP 45% と低かった。担当者増員と訓練、サ網強化、一斉定期接種日設定などにより接種率向上が認められた。また、定期外接種に両州で 05 年には 10 回、06 年前半には 4 回の SIAs が実施された。インド・ポリオ根絶専門家会議の助言で SIAs 強化と従来出来なかった地区の活動、移動チームによる接種、単価ワクチン導入（05 年からほとんどの SIAs で 1 型、同 12 月には西部 UP で 3 型単味の生ワクチンが導入されている）を実施。AFP サーベイランス：WHO の基準は非ポリオ AFP 届出数が 15 歳以下小児人口 10 万当り 2 以上であればサ網良好。インド全体で 05 年 6.4、06 年 4.4 とこれを満足しており、ビハール・UP 両州とも 10 以上で良好であった（表あり）。ウイルス検体は発病 2 週以内に 24 時間以上の間隔で 2 回採取、輸送法は適切で WHO 標準国立検査室 8 ヶ所で検査実施、検体数は激増しているが検査レベルは高く、検体採取後 28 日にはウイルス分離結果、さらに 6 日後には型内の野生・ワクチン鑑別の結果が報告されている。野生株ポリオ発生頻度：05 年インド全体では野生株ポリオ届出は 35 地区から 66 例で 62 例（94%）が 1 型、4 例（6%）が 3 型であった。06 年前半では

届出数 60 例で 57 例が 1 型、3 型 3 例で 20 地区から、46 例が U P、12 例がビハール、2 例が隣接地区であった（表、地図あり）。遺伝子解析から 1 型では 06 年分離株は 2 系列、3 型は単一系列であった。ムンバイ市の下水材料のポリオウイルス検査では 06 年 1 月の検体の 5% が 1 型陽性、遺伝子分析では U P、ビハールで流行中の株と同一であった。

7 月 14 20 日届出。コレラ：ギニア。

2006 年 7 月 28 日 (81 巻 30 号) <http://www.who.int/wer/2006/wer8130/en/index.html>

オンコセルカ症（注：フィラリアの回旋糸状虫感染症。媒介昆虫はブユ。感染者の血中のフィラリア幼虫・マイクロフィラリアを吸血したブユの体内で感染性幼虫に成熟、咬傷で感染した人の体内で成虫になり産卵、孵化したマイクロフィラリアは全身に分布して皮膚炎やリンパ節腫大をきたすが重要なのは眼球に侵入した場合失明する（ブユの発生する河川で多発するので、River blindness と呼ばれ、アフリカの多発地区では集落の成人の大半が失明したりして大問題であった。有効な薬剤が開発されて減少している）。感染者の体内で成虫の産卵は 10 年以上持続、長期に感染源となる）。第 15 回南北アメリカオンコセルカ症根絶計画(Onchocerciasis Elimination Program for the Americas, OEPA)。05 年 11 月 16 18 日。ベネズエラ・カラカス。現在中南米 6 カ国（ブラジル、コロンビア、エクアドル、グアテマラ、メキシコ、ベネズエラ）に風土的に常在。OEPA は年 2 回、常在地区住民の 85% 以上を目標に薬剤（メクチザン）投与を 15 年間継続しており、各国政府が主導、WHO など公的機関とライオンズクラブなど NGO、製薬会社が支援している。今回は 05 年の活動状況が報告された。1950 地区の常在地のうち投与率目標の 85% 以上を達成しているのは 1648 地区（85%）であった。218 地区（11%）は目標以下、84 地区（4%）は投与されなかった。地区別投与率は南ベネズエラ地区で 47%、ブラジル・アマゾン地区で 90%、それ以外の地区は全て 92% 以上であった（グラフあり）。住民の 85% 以上が投与を受けた集落数の常在地全集落数に対する割合は南ベネズエラ地区で 13%、ブラジル・アマゾン地区 76%、中部グアテマラ地区 76%、グアテマラ・エスクインチ地区 83%、それ以外は 89% 以上であった（グラフあり）。

7 月 21 27 日届出。コレラ：アンゴラ、コンゴ共和国、リベリア、ニジェール、スーダン。

愛知県感染症情報

2006年第30週(平成18年7月24日～平成18年7月30日)

愛知県衛生研究所

		定点数																										
愛知県		インフルエンザ	小児科	眼科	STD	基幹	RSウイルス感染症	鳥インフルエンザ(高病原性を除く。)	インフルエンザ(高病原性を除く。)	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん(成人麻しんを除く。)	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	成人麻しん
愛知県(名古屋市を含む)		195	182	35	51	13	2	0	246	185	440	248	837	165	142	3	1	455	0	163	3	30	1	4	9	0	0	
総数(名古屋市は除く)		125	112	24	37	12	2	0	186	127	296	208	644	143	115	3	1	348	0	127	3	18	1	4	9	0	0	
名古屋	名古屋市	70	70	11	14	1			60	58	144	40	193	22	27			107		36		12						
尾張東部	瀬戸	9	9	2	3	1	2		12	12	24	4	32	11	3			18		8		3				1		
海部	津島	7	7	2	2	1			2		11	12	53	3	4			5		2				2	2			
尾張中部	師勝	4	4	1	1				2	1	15	2	31	11	1			11		1	2	2						
尾張西部	一宮	16	12	3	4	1			13	11	38	24	69	16	7			20		5		3						
尾張北部	春日井	9	9	2	3	1			17	21	10	17	71	14	6			50		20								
	江南	6	6	1	2				19	19	24	16	78	22	20	1		37		4		2						
知多半島	半田	6	6	1	2	1			2	5	13	16	30	6	12			16		12		1	1					
	知多	7	7	2	2				29	8	16	10	29		8	1		12		12								
西三河南部	岡崎市	11	7	2	2	1			11	7	8	28	33	18	20	1		36		4	1							
	衣浦東部	13	13	2	4	1			34	12	33	21	42	6	9			24		12		3						
	西尾	5	5	1	2	1			2	2	12	6	18	3	5			19		5								
西三河北部	豊田市	9	9	2	4	1			12	16	38	19	54	1	6			36		5		2				3		
東三河南部	豊橋市	12	8	2	4	1			11	3	20	14	37	21	10			39		25		2				1		
	豊川	9	8	1	2	1			18	8	34	19	67	11	4		1	25		11				2	2			
東三河北部	新城	2	2			1			2	2										1								

